

第1回知床国立公園カムイワッカ地区

自動車利用適正化対策連絡協議会

<議事録>

1.場所：ウトロ漁村センター 大ホール

2.日時：平成23年5月26日（木） 10：30～11：30

3.出席者：別紙の通り

4.議事：

- （1）平成22年度収支決算報告について
- （2）平成22年度会計監査報告について
- （3）平成23年度のカムイワッカ方面の利用について
- （4）平成23年度収支予算（案）について
- （5）カムイワッカ地区の協議会の統合について
- （6）その他

5.配付資料：

- 資料1 平成22年度収支決算報告について
- 資料1-1 平成22年度会計監査報告について
- 資料2 平成23年度のカムイワッカ方面の利用について
- 資料3 カムイワッカでの駐車スペースの明示について
- 資料4 平成23年度収支予算（案）について
- 資料5 カムイワッカ地区の協議会の統合について
- 参考資料1 平成23年度 シャトルバス運行予定時刻表
- 参考資料2 平成23年度 周知チラシ

6. 議事概要：

(1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 野口所長

斜里町（馬場町長欠席） 代理・村田部長

(2) 議題 1. 平成 22 年度収支決算報告について

斜里町：資料 1－1 について説明

一同：了承した

(3) 議題 2. 平成 22 年度会計監査報告について

監査：資料 1－2 についての報告

一同：了承した

(4) 議題 3. 平成 23 年度のカムイワッカ方面の利用について

環境省：資料 2 について説明

網走建設管理部：資料 3 について説明

司会：何か質疑はあるか。

網走建設管理部：マイカー規制期の始まりと解除のタイミングがはっきりと明示されていない。道路交通法の関係で規制になると思うが、マイカー規制の他例では規制に入る前日 19 時にゲート閉鎖、終了日 16 時半に解放されており、時間などはあらかじめ明示して HP などで利用者に周知している。今回でも、一般車両が通行している中である日突然に通行規制となる。あらかじめ時刻等を HP などで周知徹底しておかなければ、混乱を招く恐れがある。その点に関して周知の徹底をお願いしたい。

環境省：マイカー規制が始まるのは、8 月 1 日の朝 7 時となっている。終了は、最終日の 19 時。いつ一般車両を追い出してゲートを閉めるか、というのはこちらで整理をして周知徹底をしたい。

司会：他にあるか。

自然保護協会：特例使用について感謝する。自由利用期間の大型車両の乗り入れに関しては、道路交通法に掛かる法的なものであるのか、それとも協議会における申し合わせであるのか。例えば、特例的にマイクロバスの乗り入れをお願いすることが可能であるのか、その点を確認したい。

北見方面本部：大型車両の通行止めに関しては、道路状況が良くないこともかんがみて大型車両は通行止めにするのを協議会の中で決まった。よって、法的な規制である。

自然保護協会：道路交通法についての通行規制ということであれば、カムイワッカまでの道道が現状のままだとすると、将来に渡っても大型車両は通行できないということか。

北見方面本部：現段階では、協議会で 3 年間はこのような規制をするということが決まっ

ている。将来に渡っても絶対変わらないとは言えないが、今の状況では大型車は規制の対象となっている。

司会：他に質疑はあるか。なければ、このような形で進めていく。あらためて関係機関には、利用についての呼びかけをお願いしたい。

（５）議題４．平成２３年度収支予算（案）について

環境省：資料４について説明

一同：了承した。

（６）議題５．カムイワッカ地区の協議会の統合について

環境省：資料５について説明

斜里町：補足説明。先行して、この件について網走建設管理部と話を進め、一本化することについて了解を得ている。湯の滝の利用とマイカー規制は密接に関係していることから、統一した場での意見交換が望ましい。硫黄山登山道についてもこれらの事柄と深く関係しているので、同じ協議の場をすることを強く望んでいる。協議会については、湯ノ沢の協議会よりも本協議会の方が構成メンバーも多く、歴史も古いことから、自動車利用適正化対策連絡協議会を母体として進めることを望んでいる。

北海道オホーツク総合振興局建設管理部：今の説明でもあった通り、カムイワッカの自動車利用適正化対策連絡協議会を個別にやるよりは、カムイワッカ地区の利用全般をいかに適正にしていくかの点に関して一つの協議会に統合された方が調整のためによいので、協議会の統合には賛成である。本年度から、硫黄山登山口までの６００ｍの特例使用を試行している。これは、何年間かの試行となるだろうが、その検証もこの会議とからむため、統合化をお願いしたい。

司会：何か質疑はあるか。

斜里町観光協会：統合は当然であり、いい方向だ。今までの全体的な協議会の運営の指針が、道路交通法の中でのやりくりが中心であった。本来の国立公園・世界自然遺産の現場運営の本質的な部分に戻ってきたのだらうと思う。当事者である林野庁と環境省の現場に対する姿勢について、現場だけの予算で民間にお願いをするというのには、違和感を感じる。もっと積極的に予算を具体化してほしい。特にバス事業に関しては厳しい環境にあるため、現場を維持するために国立公園の経営・世界遺産の経営維持についての、具体的な予算化をお願いしたい。

環境省：カムイワッカのマイカー規制について、表面に出ていない資料の中に、各機関が予算の面、人の面で負担している部分がある。例えば、環境省では、サブレンジャーを人員として配置している。また看板の設置等を行っている。関係機関の協力を得ながら進めているところである。

斜里町観光協会：協議会として統合するということとなると、各負担額を表面化させていくということか。

環境省：どのような運営体制にしていくかという整理は必要であるが、全ての予算の割り振りを表面化させるのは困難ではないか。

斜里町観光協会：自然保護の目的のために、道路交通法を使うという手段は逃げ腰であり、そのスタイルが今度も続くのかと思う。表面的でなく、社会的な部分として現場責任と利用者責任が話題となっており、それを全面にだして社会的な議論になっていけばいいと思うし、協議会の統合化はそうしていくチャンスかと思った。当面、現状体制の中で進めていくという感じを得た。

司会：その他にあるか。

温泉旅行共同組合：統合に関しては特に異論はない。事務局の体制はどのようにするのか。

環境省：環境省、北海道、斜里町を基本とする。従来では、北海道では環境生活課、斜里町は環境保全課であるが、もっと幅広くすることを考えている。斜里町では商工観光課、北海道では建設管理部を入れていく形になるだろう。その他必要であれば、他の機関も入れる。まだ確定はしていないが、今はそのような形で考えている。

温泉旅行共同組合：事務局が増えるのか。両協議会の事務局が一緒にやる、という考えでいいのか。

環境省：基本的には、そのような形で理解していただければと思う。

司会：他にないか。なければ、協議会の統合については了承を得たということになった。今後は、資料5の下にあるスケジュールで検討を進めていく。

（７）議題６．そ の 他

司会：意見その他何かあるか。

温泉旅行共同組合：今年から利用のシステムが変わるが、一般への周知はどのようにになっているか。このチラシ以外に何かおこなっているか。このチラシはいつできるか。

環境省：チラシ中心に広報を進める。チラシは北海道が６万部作成している。

北海道：６月中旬には完成する。

環境省：それ以外では、各機関のホームページ等で周知をしている。

温泉旅行共同組合：６月に利用開始となるが、ホームページはいつできるのか。

環境省：特別にホームページが開設される訳ではなく、各機関の既存のホームページで情報を出すという形になる。

斜里町役場：すでに載っているところもある。

知床自然保護協会：来年度以降の予算だが、今年斜里バスからの協力金下がっている。去年、おととしと現地で見てみると、シャトルバスの利用者がとても少ない。その中で、協力金を払っているのかという不安がある。斜里バスがだいぶ負担しているのではないか

とも感じる。地元の重要な機関である斜里バスの負担が重くなるのは住民として不安がある。地元企業に負担をかけないような金額を割り出すようにしたらどうか。収益の幅を持たせるよう自由度をあたえてはどうか。

司会：スケジュールも含め斜里バスと十分に協議・調整を図ってきたものである。負担をかけているのは間違いないだろうが、地元の企業であり、また行政も入っている協議会でその数字をこの場に出すのは難しいと思う。おっしゃることも分かるし、斜里バスの気持ちも分かる。ここで大きく収益がある事業ではないだろうが、行政機関側から言いづらい部分である。

知床自然保護協会：基本的にはないものと考えて、お願いするという姿勢でなければならないのではないか。予算が毎回決められていたら、会社として下げられない雰囲気があるのではないかと思ったところである。将来的な希望としてお願いしたい。

司会：バスの借り上げも含めて、協議会でおこなうなどのスタイルではなく、地元企業の参画という形であったが、お気持ちも含めて今後事務局で話していく。

（８）閉会挨拶

オホーツク総合振興局局長代理・環境生活課長：閉会挨拶。ひとつの節目の年となった。また来年に向けて２つの協議会が統合していくこととなり、新しい形がうまれた。今後も課題の整理・解決に向けて、地元として世界遺産地域にふさわしい利用を人々に提供するため、準備に取り組んでいきたい。皆様には、更なる理解・協力をうけたまわりたい。